

# ふれあいボランティア活動 感想文集



平成 28 年度



認定NPO法人

さわやか青少年センター

## ふれあいボランティアパスポート事業

### 平成二十八年年度ふれあいボランティア活動感想文集 発行にあたって

さわやか青少年センターは、青少年一人ひとりの「生きる力」の根幹となる『人間力』（自ら意欲的に生きていこうとする「自助の力」とみんなで助け合って生きていこうとする「共助の力」）を、青少年が自ら育むよう支援する団体です。

地域社会の中で行うふれあいボランティア活動（ボランティア活動の中でも人とふれあって行うことを特に重視したボランティア活動のこと。以下、活動という）は、青少年が『人間力』を育むに最適な取組みの一つであると考えています。当センターは、その活動を支援するツールとして「ふれあいボランティアパスポート」を学校や団体に提供しています。

「ふれあいボランティアパスポート（以下、ふれあいパスポートという）」は、児童生徒のボランティア活動のきっかけ（動機付け）や継続を支援するためのツールとして平成十二年に公益財団法人さわやか福祉財団において開発され、今日にいたるまで全国の小中高등학교、団体等で活用していただいています。（平成二十九年三月現在、一六二校・七団体、四万五千人以上の児童生徒が参加しています。巻末参照）

ふれあいボランティア感想文の募集の趣旨は、児童、生徒が、このパスポートを活用しながら、自らが取り組んだボランティア

活動について感想や思いを書き、自らの活動を振り返ることにより、自分の心の変化や成長、他者との共助の楽しさ、内から湧き出る意欲などに気付き、認める機会としていただきたい、というものです。

第五回目となる平成二十八年年度は、四八六人の小中高校生のみなさんにご応募いただきました。小学生は例年通り、多くの児童の皆さんにご応募をいただきました。応募作品の93%四五四点は小学生による作品でした。

中学生、高校生においては応募数は少なかったのですが、中学生、高校生、それぞれの段階における視点によるすばらしい気付きや成長をご紹介いただいております。より多くの中学生、高校生による気付きや成長をご紹介したく、中学校、高等学校の先生方には、ご協力をお願いしたいと存じます。

今年度も選考委員長には引き続き、「3年B組金八先生」などの脚本家である小山内美江子先生にお願い致しました。（P1参照）ここに、受賞者十六名の感想文を掲載しています。この感想文集をお読みいただきました学校の先生、団体の指導者の皆様には、児童、生徒が地域社会で自助力と共助力を育むふれあいボランティア活動を、積極的に奨励していただきますよう、何卒、よろしくお願いいたします。

平成二十九年三月一日

認定NPO法人さわやか青少年センター

理事長 有馬 正史

ふれあいボランティアアパスポート参加校リスト（巻末参照）

◎ホームページにも参加校、感想文集をご紹介しています。  
ダウンロードできます。（URL：<http://www.sec-tpo.or.jp>）

### 「ふれあいボランティア感想文」

応募総数486点（小学校14校1団体454点、中学校3校10点、高校2校22点）

### ○受賞者

#### 【ふれあいボランティア活動大賞】

福岡県大牟田市立白川小学校6年 藤波 夏純さん

#### 【小学生賞】（7人）

鹿児島県南九州市立中福良小学校1年 佐多 瑛さん

鹿児島県南九州市立中福良小学校1年 山村 悠斗さん

福岡県大牟田市立中友小学校2年 塚本 葉純さん

千葉県栄町立安食台小学校4年 大野 正統さん

福岡県大牟田市立中友小学校5年 松永 悠慎さん

福岡県大牟田市立高取小学校5年 重 昌樹さん

鹿児島県南九州市立中福良小学校5年 江平 芙美佳さん

#### 【中学生賞】（5人）

東京都目黒区立第八中学校1年 山本 歩さん

千葉県栄町立栄中学校1年 押木 悦郎さん

千葉県栄町立栄中学校1年 井橋 美月さん

千葉県栄町立栄中学校2年 駒井 亜由美さん

千葉県栄町立栄中学校2年 白石 智乃さん

【高校生賞】（3人）

鹿児島県立川辺高等学校2年 西 留奈さん

東京都立稔ヶ丘高等学校 水野 翔さん

東京都立稔ヶ丘高等学校 鈴木 貴博さん

（昼夜開講3部制定時制）4年

### ◆ふれあいボランティア感想文選考委員

#### 選考委員長

認定JHP・学校をつくる会代表、

脚本家 小山内 美江子氏

#### 選考委員

公益社団法人日本ファイランソロピー協会

理事長 高橋 陽子氏

NPO法人放課後NPOアフタースクール

代表理事 平岩 国泰氏

日本教育新聞社 編集局局長 矢吹 正徳氏

#### 後援

日本教育新聞社

◆ふれあいボランティア活動感想文選考委員長

ふれあいボランティア活動感想文の選考を終えて

認定NPO法人JHP・学校をつくる会代表、

脚本家 小山内 美江子

今、子どもたちの瞳にどのような日常の風景がうつっているのだろうか。

ボランティアなど特別に意識せずとも毎日が過ぎていく。従ってこの「さわやか青少年センター」からのエッセイの呼びかけは、その毎日の中でふと足をとめる作用をしているのだと思っている。

文字の整っている子ども、或いはどのようにして読んだらばよいのかと戸惑う子どももいて、小学低学年の子どもが中学生よりも、しっかりした文字で応募して来た者もいて、これは読みにくい、いや読みやすいということは採点はされていない。

ボランティアというテーマで書かれると対象はいくらでも広がっていくのだが、一番自分の胸をうった現実を多くの人に知ってもらいたい、仲間になってほしい：！という誘いなど実に明確にあらわしているものには年齢差はないと言って良い程で、子どもたちの瞳にうつる風景を私共は共有したいと常々考えている。

それだけに今度はすでにえらばれし作品も一緒に審査されることになっている。むずかしさはあるが、物の本質を見抜く力に格差はない。

それにしても今回与えられた「ボランティア」というテーマはそれぞれの生育歴から来る感性のすばらしさに出逢うと、小学生から高校生まで、彼らを育てた家族と学校での遊びをふくめた教育に、未来への風景が浮かび上がって来る。それは彼らの大人たちへの出題でもあるように思えてきて、私など、改めて此処まで来た道をふり返り30人近い若者と共に考えたりしている。

◆選考委員

ボランティア活動は全人教育のための大事な教材

公益社団法人日本フイランソロビー協会理事長 高橋陽子

小学一年生から高校生まで、それぞれの年代での体験と気づきが素直に書かれている文章を読むと、なんと頼もしく誇らしい子どもたちが育っているのだろう、と次世代への希望を新たにします。

全体として、学校単位で取り組んでいる活動が多いですが、これが、その地域の他の学校に広がることを期待します。また、子どもたちのボランティア活動は、指導者の影響が非常に大きいことがわかります。広がりのためには、教師自身への研修や体験学習などの働きかけも重要だと

痛感します。

活動内容としては、低学年では、ゴミ拾い、トイレなどの掃除が多いようですが、善行による達成感だけでなく、人との関わりなどの要素がもつと入れれば、より包括的な成長機会になるのではないのでしょうか。

中学・高校生の部門では、募金活動に関わる感想文が多く、募金をしてくれる人との関わりが、彼らの喜びと学びになっていきます。大人との共感を生む協働の活動として、今後もつと広がって欲しい活動です。

ボランティア活動（募金・寄付含め）は、思いやりの心を育むことのみ目的が限定されがちですが、目標設定や効果検証も考え、地域の協力も得ながら次の段階につなぐれば、地域の人たちや仲間との信頼を強く・深くすることになり、学習効果としても大きくなると思います。

この感想文がひとつのきっかけとなり、ボランティア活動の学校教育の中での確固たる位置づけにつながって欲しいと思います。

誰かのために出る力

**NPO法人放課後NPOアフタースクール代表理事 平岩国泰**

皆さんの「ふれあいボランティア活動」の感想文を読ませていただきありがとうございます。活動に取り組んだきっかけや活動内容は様々でしたが、皆さん共通していたのは、「誰かのために頑張ったことで結果的には自分の心が温まった」ということでした。

これはとても大事なことだと感じます。人が一人で生きていくことは難しいし、自分だけのために頑張り抜くのは相当困難です。それが誰かを思って頑張ると普段以上の力が出せるし、そのことで感謝されたり応援されたりすることで頑張る力は再生産されます。

今回皆さんがゴミを拾ったり、高齢者施設を訪ねたり、トイレを掃除したり、募金を集めたり、と様々な体験の中から感じた気持ちをぜひ忘れないで、これからもボランティアや人の役に立つチャンスがあったらぜひ積極的に取り組んでください。機会は身近にかなりあると思います。皆さんならそれに気づけると思っています。

今回感想文を送ってくれた皆さんの将来がとても楽しみです。これからも誰かのために、そして自分のために、心温まる活動をしましょう。頑張ってください。

## 勇気づけられた小さな活動者たちの一歩

日本教育新聞社編集局長 矢吹正徳

全体としてみると、小学校低学年の作品に素晴らしい作品が幾つもあり、これからの成長も楽しみです。

ボランティア活動を主題とした作文の場合、どうしても学校が主導したボランティア学習的な活動が素材として多く取り上げられがちです。初めて活動してみても感想文の類いです。初めての活動をきっかけに、より深く関わっていくような児童・生徒もいますので、それが悪いというわけではありません。

しかし、こうした状況の中でも、作品によっては、程度の違いはあるものの、やむにやまれず自らの意思で一歩を踏み出す子どもたちがいることに勇気づけられます。ボランティア活動本来の持つ、自主・自律的活動です。この小さな活動者たちはまた、周りの大人の褒め言葉によって、活動の推進力を得ていることが多くの作文から伝わってきました。我々大人たちも、励ましの一言を掛けられるだけの心の余裕を持ちたいと、考えさせられたところです。

応募作品には地域的な広がりを感じられましたが、ボランティア活動の盛んな学校からの応募に偏ったきらいがあり、次回以降にはまた多くの学校からの応募を期待したいところです。

### 受賞作品

\*児童・生徒の原文に従って作成しています。

#### 【ふれあいボランティア活動大賞】

#### 命をつなぐIサイクル

福岡県大牟田市立白川小学校6年 藤波 夏純

私が取り組んだボランティアは「Iサイクル（アイサイクル）」です。

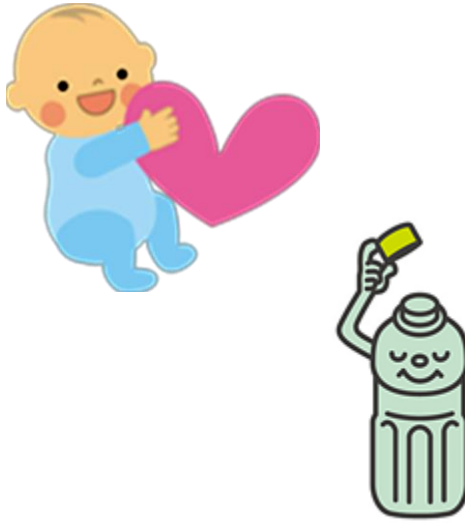
Iサイクルとはペットボトルのキャップでうえきばちを作り、そのお金からラオス、フィリピンなどの苦しんでいる人々にミルクなどを届けるボランティアです。

白川小学校では全員でこのボランティアをしています。私はいつも昼休みの時間を使ってペットボトルキャップを色別に分けることを手伝っています。色とりどりのキャップが苦しんでいる子供たちの命をすくうことができると思うと色で分けることがとても楽しくなり、「がんばろう。」という気持ちにさせてくれるのでペットボトルのキャップが花のように見えるのです。体育館に坂西先生がいらっしゃった時、坂西先生は、

「一つのキャップの値だんは安いけどみんなが集めてくれると何人もの命をすくうことができる。」

とおっしゃいました。この言葉を聞いて、キャップを分けることだけではなく、キャップを家で集めて学校に持つてくることも積極的にしました。

私はIサイクルを通して子供たちの命が危ないということを知りました。今、私たちが生きている時間でもラオスやフイリピンの子供たちは命をおとしているのかもしれない。そんな子供たちを一人でも多くすくえるようにこれからもボランティアをがんばります。



## 【小学生賞】

子どもかいのはなうえ

鹿児島県南九州市立中福良小学校1年 佐多 瑛

土よう日、わたしたちのさこせと山の子どもかいは、こうみんかんのはなうえをしました。マリーゴールドとチューリップです。

ポットのうらのまるいおしりをきゅつと手でおすと、土といっしょになえができました。はじめにあげておいたあなに、一こずつうえていきました。上にすこし土をかぶせて、やさしくトントンとしました。それからさいごに水をかけました。水といっしょに、

「はやくさいてね。」

と、こえもかけました。みんなは、はなしもしないで、しんけんにしていました。チューリップは、三かくのお山のようなきゅうこんを一こずつ、土の中にうめました。ひとり三つずつ、ていねいにうえました。どんなはながさくのかなあ。はなうえは、九じからはじまって十一じにおわりました。手がまっくろくろすけみたいになりました。

はなうえのあとは、そうじです。ぬれたぞうきんで、中からまどをふくと、だんだんそとがきれいに見えてきました。きゅつきゅつと音がして、びかぴかになりました。

でも、まどわくのところに、くものすがあつたので、それは、ほうきで、シュシュッと取りました。

そうじがおわって、みんながあつまると、けいとくんのおかあさんが

「みんな、じょうずにできました。ごくろうさまでした。」  
といました。つかれたけど、きれいになってよかったです。

たいふうのあとの はっぱひろい

鹿児島県南九州市立中福良小学校1年 山村 悠斗

たいふう十七ごうがきて、かぜの音がよるのあいだずっと  
ひびいていました。

つぎの日、たいふうはやんでいたけど、学校にいくとちゅう、大きな木がたおれていました。はっぱもいっぱいおちて  
たまっていました。

学校からかえると、ぼくは、おかあさんにないしよで、ぐん  
ん手をして、火ばさみとごみぶくろをもつて、ごきんじよさ  
んのところにいきました。

「こんにちは、木やはっぱをひろいにきました。」  
ごきんじよさんは、にこにこして

「あら、おねがいします。」

といました。ごきんじよさんから、ほうきをもらいはっぱ  
をシッシッシンとはいって、きれいにしました。つぎは火ば  
さみで木のえだをとりました。だいぶきれいになりました。

そのまえをとる人がいろいろはげましてくれました。  
「おりこうだね。」

一人でびかびかにしました。ぼくは、こころのながうれし  
くなりしました。だからますすがんばりました。みぞを見る  
と、はっぱがいっぱいあって、よごれたちやいろの水がすこ  
したまっています。ぼくは、ぬれたはっぱを手でとりまし  
た。手がよごれたけど、みぞはだんだんきれいになって、水  
がながれるようになりました。

水がびかびかになりました。そして、ぼくのこころもびか  
びかになりました。ぼくが、

「おわりました。」

というと、ごきんじよさんが、

「本とうに本とうにありがとうね。」

といました。





毎日つづけているよ

福岡県大牟田市立中友小学校2年 塚本 葉純

「わあ、ぐちゃぐちゃやん」

きゅう食しつのおはし入れのケースを見ると、わたしはかなしい気もちになります。きゅう食しつの上におはしを入れる白いケースがありますが、そのケースの中のおはしのみきがさかさまだったり、ケースからとび出したりしていることがよくあります。きゅう食いん会のおねえさんたちもかたづけのおせわをしてくれませんが、わたしは、

「ぐちゃぐちゃのおはしはイヤだなあ。きれいなほうがいいよね。よし、わたしがきれいにならべよう。」

と思いました。

そこで二学期から「おはしならべボランティア」をはじめることになりました。わたしはきゅう食とうばんで、食きがかかりです。だからおさらやおはしをかたづけないといけません。毎日きゅう食室に行つて、自分たちのおはしをいれるときに、ぐちゃぐちゃになつているものを一本ずつならべなおしていききました。だれからもたのまれていないことだけど、おはしをならべをつづけていると、おはしがならんでいるのがとてもうれしくなりました。

あるとき、

「わあ、はすみちゃん、えらいね。ありがとう。」

と先生がほめてくれました。先生のありがとうを聞いて、

もつとしたくなりました。きゅう食いんのおねえさんたちも「先生、はすみちゃんはこうやつていつもならべてくれるんですよ。」

と言つてくれました。きれいにならべると、なんだかわたしの心もきれいになったみたいです。これからも、みんなのやぐに立つことをしていきたいです。

ふれあいボランティアを活動を通じての私の成長

千葉県栄町立安食台小学校4年 大野 正紘

ぼくの地域では、通学路の道ばたに昔から大切にされているおじぞう様があります。ぼくは、今回のボランティア活動を通じて、おじぞう様とその周辺をきれいにし、これからも地域の人々がおじぞう様を守り、気持ちよく手を合わせられる場所にしたいと思いました。

冷たい風が吹く中、ぼくは弟と力を合わせてたくさんのかれ葉やゴミを集め、最後におじぞう様をきれいにみがきました。

そうじを始めると、ほんの少しのボランティア活動が家族や地域の人たちのためになり、何より自分ですがすがしい気持ちになりました。

ぼくにとつてボランティア活動は、みんなの役に立つて喜んでもらいたいと思つたり、ぼくたちでもできる事があるのなら、小さなことでも進んでやりたいと思いました。

また、みんなでボランティア活動が広がっていけば、地域や町全体がきれいに住みやすくなればいいなと思いました。ぼくは、ボランティア活動を終えて、おじょう様を見て「ありがとう」という気持ちになりました。なぜならば、ボランティア活動はぼくを笑顔にしてくれて、やさしい気持ちにさせてたからです。

次回は、お年よりや小さな赤ちゃんが散歩しやすいように、町の草かりやゴミ集めをいっしょけんめいやりたいと思います。そしてボランティア活動が小さな輪から大きな輪へ広がるのがぼくの夢です。

これからもいろいろなボランティア活動をすすんでやっていきたいと思いました。



## 何かできること

福岡県大牟田市立中友小学校5年 松永 悠慎

「こんにちは。お元気ですか？」

地域のお年寄りの方の家を訪問するときに、ぼくはこのあいさつから始めます。ぼくたち中友小学校では、五年生になると、「子ども民生委員活動」といって、地域の民生委員さんといっしょに活動し、福祉について学習します。この学習の中で、お年寄りの方に運動会の招待状や名刺を配りに行ったり、校区敬老会のお世話をしたりして、お年寄りの方とたくさん話をすることができました。お年寄りの方は、いつもぼくたちに「ありがとう。」と言ってくれました。とくべつなことはしていないけど、ぼくたちに言われる「ありがとう」の言葉が、とてもうれしくて、お年寄りの方々に何かできることはないかなと考えるようになりました。そんな時に「赤い羽根共同ぼ金」の取組をすることになり、ぼくたちがデザインしたチラシを作成し、大牟田駅近くで配りました。ぼ金の日にも大きな声で呼びかけていると、

「ちよつとだけど。」

と言ってぼ金箱にお金を入れてくださる方がたくさんいらっしゃいました。ぼくは、「ちよつと」という気持ちがとてもうれしかったです。この「ちよつと」が集まることで、大きな力になると思いました。

十月には、松原中学校の人といっしょにクリーンアップ

運動で、校区内のごみをひろいました。このときも一人がひろうごみは、ちよつとだけだったけど、学校のみんなでひろえば大きな力になり、町がきれいになりました。ぼくは、今まで面倒くさいと思つたこともあつたけど、民生委員活動やごみひろいをして、「何かできることはないかな。」と思えるようになり、協力したいという気持ちが大きくなりました。そして、だれかの役に立つことがとてもうれしくなりました。

### 高取ホタルのいる町計画について

福岡県大牟田市立高取小学校5年 重 昌樹

ぼくは今、クラスの皆で高取校区中に、多くの「ごみ」が落ちていることや校区の中にある「長溝川」がよごれていて、ホタルが、住めなくなっていることから、

「高取ホタルのいる町計画」を行うことにしました。取組の一つ目として、校区内のごみ調査をしました。結果としては、大人でも、子供としても両方が捨てたと思われるごみが多く落ちていました。取組の二つ目として、全校児童で校区中のごみを拾う、

「拾って集めるごみ活動」という活動を行いました。そこで、燃える燃えないごみが袋に合計三袋くらい集まったかと思いません。

しかし、ここで終わってしまうとまたごみの落ちている町にもどってしまうということから学校への登校中にごみを拾

つてきてもらうことにして、全校児童へ、五年生から呼びかけました。すると全校児童の人達がだんだん自分たちから拾ってくれるようになりました。皆が拾って来てくれるのを見るために、先生が自分たちの各委員会の当番日を聞き、それにかぶらないようにして、ごみ当番というものをつくりました。どのくらい日にちがたつたことか、どのくらいかたつと皆がごみがないといって拾って来なくなりました。そこで二回目の調査したところまだごみは少しありました。そこで「感謝状」をつくって一週間の中で一番多くごみを拾って来てくれた学年に感謝状を渡すことになりました。

これからもずっと続け町をきれいにしていこうと思います。また、ぼく達五年生が卒業していくまでに達成できなかった分は次の、世代へとつなげたいと思います。



## 笑顔が増えるボランティア

鹿児島県南九州市立中福良小学校5年 江平 芙美佳

あいさつ運動は、私たちのボランティアのひとつだ。これは、毎週水曜日の朝、正門に立って、学校に来る人や、車で学校の前を通る人などにあいさつをする。暑い日も寒い日もしなければならぬので、前までは、めんどくさくていやだなと思っていた。でも、しだいにうれしくなってきた。それは、車で通る人が、私たちに優しい笑顔でまどをあけて、「おはよう。」

と言ってくれる人が増えてきたからだ。ボランティアって人を笑顔にするまほうみたいだなと思った。今は、六年生についていって、ボランティアをしている。でも、次は、私たちが最上級生としてがんばらなければならない。だから、次から私たちがみんなをひっぱってボランティアをしてがんばっていききたい。そして、この学校や地域を、協力して、あいさつでいっぱい場所に変えたい。また、ボランティアをして、みんなを笑顔にしていきたいと思う。

私の学校では、他にもさまざまなボランティアをしている。一年に一回の校内でのボランティア活動だ。今年は私たちは、ごみ拾いをした。いつも気になっている道路ぞいのごみ。私はいつも、

「だれが捨てたのかな。きたないね。」

と言って、友達といっしょに、見て見ぬふりをしてしまっ

ていた。でも、この活動を通して、ごみがたくさん落ちていたときは、自分から進んで拾おうと思うことができた。私たちが捨てたわけでもないし、私たちが拾わなければならないというわけでもない。しかし、この町をきれいにしていくために、私ができるかぎりのことはやりたいと思う。町をきれいにするのは大変だ。これからは、気づいたときにしつかり実行できるようにしたい。



## 【中学生賞】

### ふれあいボランティア活動を通じての私の成長

東京都目黒区立第八中学校1年 山本 歩

今年、私が参加した様々なボランティア活動の中で、校内トイレ掃除ボランティアは強く印象に残った活動でした。私には家でもトイレ掃除をした事がありません。汚い事が苦手なためでした。このボランティアは自分からやろうと思ったものではなく、部活での参加によるものでした。掃除が始まった時、あまり乗り気にはなれませんでした。いつまでも嫌がっていたのは仕方ないと気持ちを持ち替えて作業を行いました。作業中、活動を開いてくれた地域の方々色々な話をしました。普段の学校生活の事なども話しましたが、どうしたらこの汚れが取れるのかなど、掃除についての話を多くしました。また、ボランティア活動についての話も聞きました。その内容は、海外にもトイレ掃除ボランティアをしようとした、というものでした。私は、トイレ掃除のために海外に！とても驚きました。海外でも最初の方は参加者が少なく、大変だったそうです。しかし、毎年粘り強く開催し続ける事で、徐々に参加者も増えていくと聞きました。地域の方々と話している時、みなさんの顔はニコニコしていても楽しそうでした。私も少しずつそれにつられて笑顔でトイレ掃除を楽しんでいました。仕上げのタイル磨きが終わり、改めてトイ

レを見返すと、想像以外にきれいになっており達成感がありました。そして私の中には掃除に対する楽しさと爽快感が生まれました。

私がいつもきれいなトイレを使っているのは、きれいにしてくれている人がいるためだと改めて気付く事ができました。家のトイレ掃除をしてくれている父や母に、「いつもトイレ掃除ありがとう。これからは私もできるだけ掃除するね。」と今度伝えようと思います。今までの自分になかったことに気が付ける、有意義なボランティア活動に積極的に参加していきたいと思えます。そして新たな自分を見つけていきたいです。

### 満たされた募金箱

千葉県栄町立栄中学校1年 押木 悦郎

地元のスーパーの店先で行う募金活動は、気恥ずかしい気持ちになる。

部活動の声出しと違って、みんなの注目の的になり、思うように声が出ない。

「早く終わって欲しい。」と、ずっと心の中で思っていた。

募金をしてくれた人には、ポケットティッシュと赤い羽根を手渡す。

小さな子供からお年寄りまで、さまざまな年代の人が募金に協力してくれるので、しゃがんだり、腰をかがめたりといそがしい。

自分では気付かなかったけれど、ちよつとしたそのしぐさに対して、劳いの言葉を掛けてくれる人がいたり、呼び掛けを続けていたら帰りに飲み物を差し入れてくれた人もいた。募金箱の中には、多くの人の善意でいっぱいになったが、いつの間にか、自分自身の心の中まで満たされた気持ちになっているのがわかった。

恥ずかしいと思う気持ちも、知らないうちに消えていた。何気ないしぐさも、何気ない劳いの言葉ややさしさも、募金そのものには関係無いのかも知れない。けれど、募金箱を通じてのそのやり取りが、気持ちの上で自分を成長させてくれているのだと思った。

善意と優しさで満たされたその箱の重さをいつまでも感じていたいと、スーパ―を後にしながら思った。

## ボランティアを終えて

千葉県栄町立栄中学校1年 井橋 美月

私は今回、赤い羽根募金という募金活動に参加しました。赤い羽根募金自体に参加したことは何度かありましたが、今回はスーパ―の前での活動ということで、かなりきん張していました。

活動時間は三十分という短い時間でした。私はこんな短時間で集まるのかな、と思いつつも、大声で「赤い羽根募金にご協力お願いします。」

と呼びかけていました。

すると何人かの方が、募金箱にお金を入れてくれました。私は募金をしてくれた方々一人一人に

「ありがとうございます」

と言つてティッシュと羽根を配りました。

残り時間もあと少し、と思つていたころ、お店から出てきた一人の人が、

「寒い中頑張つてるねえ。これ良かったら飲んでね。」と言つて、私たちにコーヒ―をくれました。私はその人にくさんお礼をして、残つた時間全力で声をかけました。

この募金を通して私は人の優しさや温かさにふれられたと思います。

たくさんの方々からもらった頑張つてね、という言葉、差し入れをくれた人の思いやりが私の心を温めてくれました。

私がこの募金でもらったたくさんの方の感謝と思いやりを、いつか自分自身が返せるようにこれからもボランティア活動に参加していきたいです。



## ふれあいボランティア活動を通じての私の成長

千葉県栄町立栄中学校2年 駒井 亜由美

私が行ったボランティア活動は、赤い羽根共同募金です。学校の近くにあるスーパールの入り口の前で、募金活動をしました。最初は、不安でいっぱいでした。呼びかけても協力してくれなかったらどうしよう、役に立てなかったらどうしようと考えていました。でも、やってみると私達に気づいて募金してくれました。私はその時、人の優しさに心を打たれました。小学生からおばあさんまでもが、募金に協力してくれました。一人一人が笑顔で募金をしているのを見ると、心が満たされていくのが分かりました。最初に不安を覚えていたことを考えると、私が考えていたことは、あまり当てはまりませんでした。呼びかけをしたら、わざわざ車から降りて、募金をしてくれたり、小学生で遊びに来た子が、募金をしてくれたり、とても嬉しい気持ちになりました。私は、この募金活動を通して本当に良いことなんだと感じました。活動者の金銭的満足感と活動的満足感で考えれば、ボランティアの活動的満足感の方が人が集まり易く、幸福感も増すのでボランティアも良いことと言えます。近所の人たちにお礼を言われたり感謝されればそれが何よりの報酬だと私は感じました。ボランティアでの報酬はお金ではなく心の満足感と周囲の人たちの笑顔だと感じました。機会があればもっとボランティアに参加してみたいなと思いました。

## ふれあいボランティア活動

千葉県栄町立栄中学校2年 白井 智乃

私は、陸上部の部員としてふれあいボランティア活動に参加しました。やる前は少しやる気が出ず、めんどくさいなあと思っていました。ボランティアをするお店を發表された時、一緒に活動する友達が良い凜さんだったので安心しました。凜さんと一緒に私たちがたんとうする『栄町を愛する女性の会』の出し物の所に行きました。あいさつをするとみなさんが明るく、

「よろしくね！」

「何部なの？」

とたくさん話しかけてくれたので緊張もほぐれ元気にやることができました。私たちの担当したお店は、自分たちで作った、あみ物のバッグなどが売っていました。私と凜さんが手伝ったのはプレスレット体験ができるコーナーを手伝いました。来てくれた小さい子、女性の方などのみなさんができた。来てくれた小さい子、女性の方などのみなさんができた。時に、

「ありがとうございます。」

とうれしそうにお礼を言って帰って行くみなさんを見てとてもうれしい気持ちになりました。

終わりの時間になると、お店のみなさんが

「あなたたちのおかげで、たくさんのお客さんがお店に来てくれたわ。本当にありがとう。」

と言ってくださり、このお店を体験できて良かったなど本当に思いました。

ボランティアは、大変だし、めんどくさいなど思ってしまった、やる気が出ないと思うけど、体験しないとわからない、栄町のみなさんとのふれあうことの楽しさや、お客さんが笑顔になった時のうれしさなど、いろいろな達成感を味わうことができてとても良い経験になると思いました。これからは、自分からせっせんして活動していきたいです。



## 【高校生賞】

### 初めの一步

鹿児島県立川辺高等学校2年 西 留奈

私の学校はボランティア活動が盛んである。毎月とっていいほど、ボランティアの募集をしている。しかし、私は部活動が忙しいことを理由になかなか参加できずにいた。

ある日、友達の誘いからボランティアに参加することになった。場所は老人ホームだった。私は人前で話すことが得意な方でもなかったもので、正直不安しかなかった。「笑顔で接することができるのだろうか」「上手にコミュニケーションをとることができるのだろうか」と、そのようなことばかりを考えていた。活動内容は折り紙を一緒にすることだった。案の定、うまく会話をするのができないまま活動がスタートした。私は隣に座っていた方が上手にはさみを使うことができず、困っているのを見て、手を添えてあげた。すると、その方は私の目を見て笑顔で

「ありがとう」

と言ってくれた。私はとてもうれしい気持ちになった。

その後、たわいもない話だったが少しずつ話せるようになり、あっという間に時間が過ぎ去った。私の最初の不安な気持ちはいつの間にか消え、「楽しかった。また行きたい」という気持ちに変わっていた。



今回の体験を通して、人と接する楽しさや人の役に立つうれしさを学ぶことができた。そもそも「ボランティア」って何だろう。調べてみると「自ら進んで社会活動などを無償で参加する人」と書かれてあった。今回私は友だちに誘われて参加している。これではボランティアとは言えないだろうと思う。次からは自ら進んで社会活動に参加していこうと思った。

## デイサービスのボランティア

### 東京都立稔ヶ丘高等学校

(昼夜開講 3部制定時制) 3年 水野 翔

私は、デイサービスのボランティアを三日間しました。行ったデイサービスには約三十人ほどの人が来て、介助者が四名、看護師が二名ほどいました。

私がお手伝いしたことは、お年寄りの方がいらした際に、手をアルコールで消毒してあげたり、机を消毒し、お茶を出したりしました。お年寄りの方が私にお手洗いに言きたいと言って下さったので介護士の方を呼んだりもしました。お年寄りの方と会話を交わしているうちにわかったこともありました。何回も同じ話を繰り返しされるお年寄りの方もいらっしゃいますが、相づちをうってあげるだけでも嬉しそうにしています。もともと結構人見知りをしてしまう方だったので最初はすごく緊張しましたが、話しているうちに段々楽しくなり三日間がすぐ終わってしまいました。

三日間ありがとうございました！と一人一人言っていた時にたくさんの方から、また来てねなどと言われてボランティアの良さがわかりました。なかでも視覚障害のある方と長い間お話をしました。すごく気に入られてたくさん昔の経験について聞くことができました。家族の話だとか戦争の頃の話を書きました。

私は、はじめてデイサービスのボランティアを行ったのですが、とても楽しくお手伝いすることができました。これからデイサービスで習ったことを生かしデイサービスにいない時でもお年寄りの手助けをしていきたいです。



小学生とふれあいボランティア  
東京都立稔ヶ丘高等学校

(昼夜開講3部制定時制) 4年 鈴木 貴博

私は、今年の夏頃稔ヶ丘高校の近くにある小学校に行きボランティア活動をしました。内容は、小学生が色々なことにチャレンジをするので、その手伝いをするのでした。私の担当は、✕ジャイロの作り方を教えることでした。地域のおじさんからまず作り方を教わり、友人と二人で小学生や、保護者に教えていました。その時いた友人は、作り方を一回で覚えられていなかったもので、そのサポートをしつつ教えるのには苦労しました。

一番難しかったと思うことは、一度に小学生三〜四人を相手に教えることでした。なぜなら、説明を一回で理解してくれる子もいれば、そうではない子もいて、教えることが違くなり難しいと感じました。あとは、相手と視線を合わせることで、どこを見ているのかや、普段の自分より少し明るめにし話しやすくなるのではないかと考え、実行したら小学生の方から話しかけてくれることもあり、とてもうれしかったです。このボランティアより前に地元の小学生にサッカーを教える手伝いで、小学生にふれあう機会があったのでその経験が生かされたのだと思います。

私は、このボランティア活動で成長したと思うことは、

コミュニケーション能力が上がったということだと思います。なぜなら、私は、中学の頃いじめにあい不登校になり、人と関わる機会が少なく、高校に入ってから少しずつコミュニケーション能力が付いていきましたが、知らない人と話すことに緊張し、上手に話すことができませんでした。ですが、このボランティアでは、普通に話すことができたので、成長したと感じました。

このボランティアの経験は、将来なろうと考えている子どもスポーツインストラクターの役に立つのではないかと考え参加しました。なので、その経験を生かせるように努力し、頑張っていきたいと思っています。また、このような機会があれば積極的に参加していきたいです。



平成28年度ふれあいボランティアパスポート参加校・団体リスト  
参加児童生徒数45,420人

FVP申込数39,428冊

1	北海道	千歳市立向陽台小学校	92	新潟県	○ 柏崎市立第二中学校
2		NPOまち工房・元氣!	93		○ 新潟県子ども会連絡協議会
3	青森県	弘前市若木児童センター	94	長野県	○ 長野県長野高等学校(通信制)
4	岩手県	盛岡市立月が丘小学校	95		○ 関市立金亀小学校
5		盛岡市立南川中学校	96		○ 関市立小金田中学校
6	宮城県	仙台市立七花田小学校	97		○ 関市立大原小学校
7		鹿角市立花輪小学校	98		○ 関市立武蔵小学校
8		鹿角市立花輪北小学校	99		○ 関市立武蔵南小学校
9		鹿角市立平元小学校	100		○ 関市立武蔵西小学校
10		鹿角市立十和田小学校	101		○ 関市立上之保小学校
11		鹿角市立東広小学校	102		○ 関市立板取川中学校
12		鹿角市立大湯小学校	103		○ 関市立富野中学校
13	秋田県	鹿角市立草木小学校	104		○ 関市立津浪川中学校
14		鹿角市立尾去沢小学校	105	静岡県	○ 袋井市立袋井南中学校
15		鹿角市立八幡平小学校	106		○ 愛知県一宮市立業葉中学校
16		鹿角市立花輪第一中学校	107	愛知県	○ 愛知県立香和高等学校
17		鹿角市立花輪第二中学校	108	大阪府	○ 松原市立松原第二中学校
18		鹿角市立十和田中学校	109	高知県	○ 高知市立一宮小学校
19		鹿角市立尾去沢中学校	110		○ 高知県立高知東高等学校
20		鹿角市立八幡平中学校	111	山口県	○ 山口市立湯田中学校
21		山形県新庄市立新庄中学校	112		○ 小郡市立味坂小学校
22	山形県	山形県立山辺高等学校	113		○ 小郡市立小郡小学校
23		山形県舟形町立舟形小学校	114		○ 小郡市立御原小学校
24		山形県舟形町立舟形中学校	115		○ 小郡市立石立小学校
25		青少年地域ボランティアサークル「ふなっ子」	116		○ 小郡市立三国小学校
26		棚倉町立近津小学校	117		○ 小郡市立大原小学校
27	福島県	棚倉町立社川小学校	118		○ 小郡市立東野小学校
28		棚倉町立高野小学校	119		○ 小郡市立のぞみが丘小学校
29		棚倉町立棚倉小学校	120		○ 小郡市立宝城中学校
30		棚倉町立山岡小学校	121		○ 小郡市立大原中学校
31		棚倉町立棚倉中学校	122		○ 小郡市立石立中学校
32		茨城県水戸市立河和田小学校	123		○ 小郡市立小郡中学校
33	茨城県	阿見町立阿見小学校	124		○ 小郡市立三国中学校
34		茨城県立霞ヶ浦高等学校	125		○ 福島県立三井高等学校(福祉教養コース)
35	埼玉県	○ 春日部市立豊春中学校	126		福島県
36		越谷市立中央中学校	127		○ 福島県立三井高等学校(福祉教養コース)
37		栄町立安核小学校	128		福島県
38	栄町社会福祉協議会	栄町立布織小学校	129		○ 大牟田市立みなと小学校
39	栄町教育委員会	栄町立安食台小学校	130		○ 大牟田市立天満小学校
40		栄町立竜崎寺台小学校	131		○ 大牟田市立駿馬南小学校
41		栄町立栄中中学校	132		○ 大牟田市立駿馬北小学校
42		市原市立具業台小学校	133		○ 大牟田市立天の原小学校
43		千葉県立京葉高等学校	134		○ 大牟田市立玉川小学校
44		○ 千葉県立立派人中中学校	135		○ 大牟田市立大牟田中央小学校
45		鹿田区立岡国中学校ボランティア部	136		○ 大牟田市立大牟田正小学校
46		○ 品川区立小中一貫校日野学園	137		○ 大牟田市立明治小学校
47		品川区立小中一貫校荏原平塚学園	138		○ 大牟田市立立川小学校
48		品川区立城南小学校	139		○ 大牟田市立高取小学校
49		品川区立大崎中学校	140		○ 大牟田市立三津小学校
50		○ 品川区立荏原第五中学校	141		○ 大牟田市立羽山小学校
51		目黒区立中目黒小学校	142		○ 大牟田市立銀水小学校
52		目黒区立第八中学校	143		○ 大牟田市立内小小学校
53		目黒区立目黒中央中学校	144		○ 大牟田市立吉野小学校
54		世田谷区立瀬田中学校	145		○ 大牟田市立永倉小学校
55		世田谷区立用賀中学校	146		○ 大牟田市立立橋中学校
56		杉並区立杉並第一小学校	147		○ 福岡県立ありあけ新世高等学校
57		杉並区立松庵小学校	148		○ 伊方市立南波多小学校
58		豊島区立要小小学校	149		○ 嬉野市五町小学校
59		豊島区立千早小学校	150		○ 嬉野市立久間小学校
60		尾久六にこにこくーる	151		○ 嬉野市立藤小小学校
61		荒川区立尾久八幡中学校	152		○ 嬉野市立大野原小学校
62		板橋区立舟渡小学校	153		○ 嬉野市立大星野小学校
63	東京都	練馬区立旭丘小学校	154		○ 嬉野市立嬉野中学校
64		練馬区立光が丘第四中学校	155		○ 嬉野市立大野原中学校
65		八王子市立宮上中学校	156		○ 嬉野市立吉田中学校
66		昭島市立つつしヶ丘南小学校	157		○ 神埼市立神埼小学校
67		町田市立三輪小学校	158		○ 神埼市立西郷小学校
68		小平市立小平第六小学校	159		○ 神埼市立菅原小学校
69		小平市立小平第八小学校	160		○ 神埼市立千代田西部小学校
70		小平市立小平第十四小学校	161		○ 神埼市立千代田中部小学校
71		小平市立学園東小学校	162		○ 神埼市立千代田東部小学校
72		小平市立花小金井南中学校	163		○ 神埼市立比山小学校
73		東大和市立第三中学校	164		○ 神埼市立神崎中学校
74		武蔵村山市立第一中学校	165		○ 神埼市立菅原中学校
75		○ 武蔵村山市立小中一貫校村山学園	166		○ 神埼市立千代田中学校
76		東京都立南大沢学園	167		○ 対馬市立仁田小学校
77		東京都立芝商養高等学校	168		○ 熊本県
78		○ 東京都立松ヶ丘高等学校	169		○ 玉名市立玉名小学校
79		○ 東京都立東久留米総合高等学校(全日制1年生)(夜間部)	170		○ 南九州市立福良小学校
80		東京都立永山高等学校収養業部	171		○ 鹿児島県立川辺高等学校
81		明徳学院高等学校			
82		藤村女子中学・高等学校			
83		横浜市立岡村小学校			
84		横浜市立日隈山小学校			
85		横浜市立六ヶ川中学校			
86		横浜市立新井中学校			
87		横浜市立鎌木中学校			
88	神奈川県	○ 茅ヶ崎市立松道中学校			
89		神奈川県立新羽高等学校			
90		横浜創英中学校高等学校			
91		NPO法人湘南ライオット・まきずな・学習支援プログラムまきずな			

※○ふれあいボランティアパスポートフレンズ  
教育委員会や学校が作成したオリジナルのふれあい  
ボランティアパスポートを使用して参加している教育  
委員会、団体や学校です。  
※教育委員会  
教育委員会として全小中学校に参加いただいています。

後援：日本教育新聞社

平成 28 年度ふれあいボランティア活動感想文集  
平成 29 年 3 月発行

認定NPO法人さわやか青少年センター

〒167-0043 東京都杉並区上荻 1-24-17 丸華ビル 5 階  
認定NPO法人さわやか青少年センター事業所

TEL : 03-6279-9236 FAX : 03-6279-9256

URL : <http://www.ssc-npo.or.jp> / E-mail : [info@ssc-npo.or.jp](mailto:info@ssc-npo.or.jp)